

## 2021 年度実施概要

学校名

天草市立御所浦小学校

採択活動名

単元開発部門

実施単元 ※実施した単元の数に応じて記載してください

単元名	学年	教科
1. 御所浦の自然を守ろう！ 「ふるさとの環境について考える～御所浦の環境問題・アマモの栽培～」	5	総合的な学習の時間

取り組みの概要

本事業は、海に囲まれた環境で育つ児童にとって、より海を身近なものに感じてほしい、地域を愛する心を育んでほしい、大人になって故郷を発展させる人材になってほしいなどという願いから、御所浦の環境や漁業について学び、校内に、身近な海で採れた海洋生物を入れた、海水の水槽設置を実現した事業である。

まず、5年生の総合的な学習の時間を中心に、御所浦の環境について考え、それを守ってきた人々の努力を中心に考えた。児童は、養殖漁業やアマモの栽培による環境保全活動等、御所浦の海を守るためにどのような活動が地域で展開されているかを学んだ。その一つ、御所浦の豊かな海を守り続けるためにも、海のゆりかごとと言われる「アマモの栽培」に着目した。御所浦漁協や水産研究所、天草海部の協力を得ながら、アマモについて調べ、アマモの栽培、管理からアマモの植え付けを行った。

また、海に囲まれた生活をしている児童にとって、なかなか身近な海の生物と親しみが少ないことから、まずは、海洋生物を身近に感じるため、目の前の海で採れた様々な海洋生物を校内で観ることはできないかと考えた。そこで、保護者や水槽設置の専門家、漁業関係者、地元漁師の方々と水槽設置に関する情報共有を行いながら、学校と地域とが「子供たちに身近な海にもっと関心を持ってもらいたい。そして、ふるさとを誇りに持ってほしい」という共通認識のもとに、海水循環型の水槽「御所っ子水族館」の設置を実現させることができた。

アマモの栽培や御所っ子水族館の設置では、報道関係の取材も多く、新聞、テレビ、ケーブルテレビ等で報道していただき、県内各地から反響があった。

御所っ子水族館の設置では、これまでにタツノオトシゴやタコ、ハコフグ、ホウボウ、マダイ、ヒラメをはじめ、図鑑で調べないと名前が分からないような珍しい海洋生物など多くの魚種を展示することができた。地元漁師の方からも「珍しい魚が網に入ったから、御所っ子水族館に持ってきます」という連絡があり、地域と学校をつなぐ海洋教育にもつながっている。

最後に、アマモの植え付けや毎週のアマモの水替えを通して、環境保全への意識が高まった。また、御所っ子水族館の設置を通して、少しいつもと動きが違うカワハギの様子を報告に来たり、ナマコの行動パターンについて自分なりの考えを話してくれたり、環境委員会の子供たちの活動もえさやり体験やスケッチ大会など、子供たちが御所浦の海の生物に親しみをもつ企画をするなど身近なこととしてとらえ、そこから学ぼうとする姿勢を感じることができ、これまで以上に海洋教育への関心が大きく高まった。

【活動の写真】

アマモの植え付け



御所っ子水族館

→  
右写真は、地元漁師の方が、珍しい魚種が網に入ったと持ち込まれたときの写真



↑購入機材へのロゴシールの貼付



←御所っ子水族館